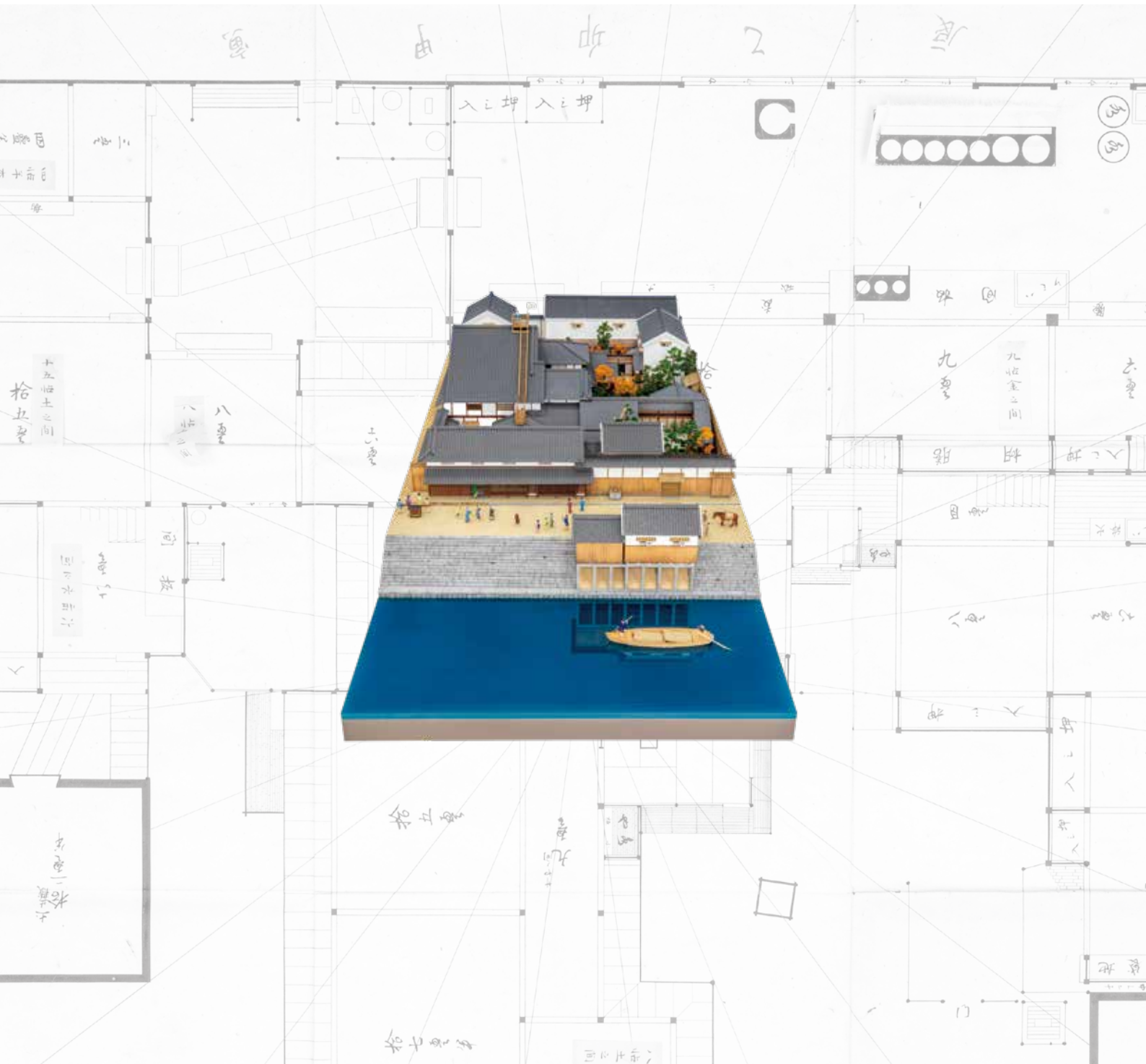
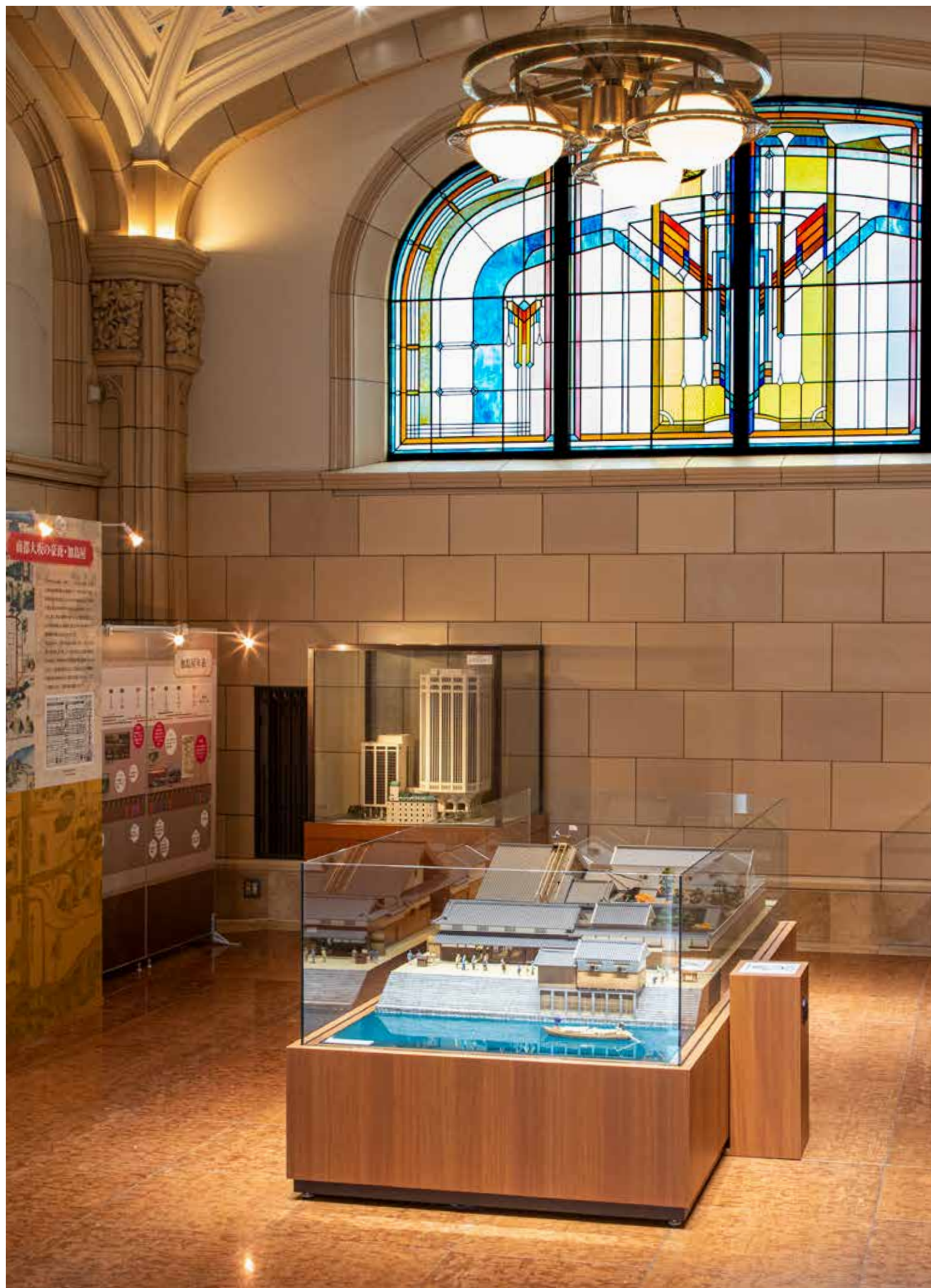


「加島屋本宅模型」の 設計と演出

—大同生命大阪本社ビルメモリアルホール展示模型—







まえがき

加島屋廣岡家は、幕末の豪商番付では鴻池家とならぶ存在であったが、現在ではその知名度は高くはない。加島屋に関する史料が公開されなかったことが、その大きな理由であった。ところが2011年、加島屋廣岡家を源流にもち現在も加島屋本宅の地に大阪本社ビルを置く、大同生命保険株式会社（以下「大同生命」、1902年創業）が、所蔵する史料約2,500点（「大同生命文書」）を大阪大学に寄託した。同社は2012年には創業110周年の記念事業として、同社大阪本社ビル2階のメモリアルホールにおいて「大同生命文書」を一部公開するとともに「大同生命文書解題」を公開したことで、加島屋の再評価が始まった。その後、廣岡家の親戚にあたる岡橋家の土蔵から20,000点を超える古文書（「廣岡久右衛門家文書」）が発見され、その調査・研究が一挙に進んだ。

これと呼応するように、2015年の秋から半年間、NHK朝の連続テレビ小説「あさが来た」が放送された。ドラマの主人公は、江戸末期、京の出水三井家から加島屋の分家である五兵衛家に嫁入りした廣岡浅（浅子）であった。ドラマの時代考証・風俗考証を担当したのは、経済史研究の宮本又郎大阪大学名誉教授と高槻泰郎神戸大学准教授、そして建築史研究の谷直樹（当時大阪市立大学教授・大阪くらしの今昔館館長）であった。このドラマをきっかけに、大同生命や廣岡本家の久右衛門家と分家の五兵衛家との縁ができ、資料調査も進んだ。神戸大学経済経営研究所には両家ゆかりの文書類が寄託され、大阪くらしの今昔館にも久右衛門家所蔵の雛人形や五兵衛家所蔵の浅子ゆかりの品が寄贈あるいは寄託收藏された。

こうした資料の発見によって、加島屋の歴史研究は高槻泰郎神戸大学准教授を中心に飛躍的に進んだ。すなわち、膨大な文書群の整理とデータベース化が進められ、研究論文が学術誌に発表された。また2022年7月には高槻氏の編著になる『豪商の金融史』が慶應義塾大学出版会から刊行された。大阪くらしの今昔館でも2017年3月に開催された特別展「大坂蔵屋敷」展で、大坂蔵屋敷に出入りする商家として廣岡家に取り上げられ、商業資料とともに宅地や建物に関する絵図が紹介された。

この「大坂蔵屋敷」展をきっかけに、大同生命広報部（当時）と大阪くらしの今昔館との間で、加島屋の本宅を模型で再現しようという構想が生まれた。大同生命の小川琢磨氏、大枝恭子氏、郡清隆氏と何回かの打合せを経て、2021年9月に、大同生命創業120周年事業のひとつとして「加島屋に関する共同研究」プロジェクトが立ち上がり、模型制作のためのプロジェクトチームが組織された。コロナ禍という困難な中で延べ12回の検討会を重ね、10か月の歳月をかけて2022年6月に模型が完成した。そして翌7月15日、大同生命の120年目の創業記念日に、大阪本社メモリアルホールにおいて加島屋本宅再現模型が公開された。

同時に、大阪くらしの今昔館の企画展示室では、特別展「商都大坂の豪商・加島屋一あきない町家くらし」が開催された（7月15日～9月26日）。同展では、加島屋の宅地・建物絵図に加えて廣岡家に伝わる商業資料、美術資料、そして生活資料が展示され、展覧会図録が刊行された。

加島屋本宅再現模型は、設置場所である大同生命メモリアルホールの規模を考えて、縮尺率を30分の1とした。正面が1.2メートル、側面が2.9メートルに及ぶ巨大な模型になった。再現された時代は、加島屋がもっとも繁栄し、鴻池と並んで大坂の豪商に並び称されていた幕末の慶応2年（1866）頃、季節はコメの収穫期にあたり大坂の米市場が賑いをみせる秋とした。

本報告書の作成過程で、多くの方々からご教示、ご協力を得た。加島屋の資料に接するきっかけを与えていただいた大阪大学の宮本又郎名誉教授、廣岡家資料について便宜を図っていただいた廣岡八千代様、西野久子様、岡橋清元様、廣岡和治様、大同生命コーポレートコミュニケーション部の皆様には、このプロジェクトに対して熱心にご援助をいただいた。末尾ではあるが、ご指導・ご協力をいただいた皆さまに厚く感謝申し上げる次第である。

2023年3月

大阪市立大学名誉教授 谷直樹

目次

加島屋本宅再現模型の制作―建物の設計	谷 直樹・松本正己	6
1. 加島屋本宅の敷地		
2. 加島屋本宅の平面		
3. 加島屋本宅の外観		
4. 加島屋の室内空間	見世／台所／座敷／茶室と茶庭	
5. 付属の建物		
6. まとめ		
加島屋本宅模型 復元設計図	松本正己	18
加島屋本宅再現模型の制作―くらしの演出	岩間 香	22
1. 髪型と服飾	武家／商家／御寮人／女中／職人・馬方・船頭・人足／子ども	
2. 情景の再現	土佐堀通り／見世／表座敷の襖絵と掛軸／茶室の道具／ 奥座敷の団欒／台所／裏庭の風景／その他の点景	
3. まとめ		
人形・小物制作	坂部勝則・北原須美子	44
加島屋の建物の変遷と特徴	谷 直樹	52
1. 17世紀後期・18世紀初頭における加島屋の建物	地誌・地図にみる加島屋の所在地／元禄から享保期における屋敷地／ 18世紀初頭における加島屋の建物	
2. 18世紀中期から19世紀中期の加島屋の建物	享保大火による被災とその後の復興／19世紀前期・中期の加島屋の建物	
3. まとめ		
加島屋の掛屋敷絵図と借屋普請	谷 直樹	70
1. 近世大坂における借屋と借屋経営		
2. 高麗橋2丁目の掛屋敷と普請	表借屋と裏借屋と土蔵と／普請と職人／裸貸のシステム	
3. 堂島の掛屋敷など	「堂島北中町東屋敷絵図」／「堂島3丁目掛屋敷絵図」／「某長屋絵図」／ 「某町家絵図」／「土佐堀・堂島・江戸堀 家屋土蔵図面」	
4. まとめ		

「加島屋に関する共同研究」プロジェクトチームメンバーは次の通りである。

谷 直樹（大阪くらしの今昔館前館長・大阪市立大学名誉教授）

岩間 香（大阪くらしの今昔館特別研究員・摂南大学名誉教授）

高槻泰郎（神戸大学経済経営研究所准教授）

増井正哉（大阪くらしの今昔館館長）

服部麻衣（大阪くらしの今昔館学芸員）

松本正己（松本建築事務所代表）

大同生命コーポレートコミュニケーション部

これに、模型制作を担当する株式会社ヤマネ（林圭祐）、アルケミィ（坂部勝則・北原須美子）が参加し、全体のコーディネートを大同生命コーポレートコミュニケーション部が担当した。本報告書は、この「加島屋に関する共同研究」プロジェクトの成果をまとめたもので谷直樹が総括した。